

病院から地域につなぐ薬物療法と 薬剤師の役割

日本病院薬剤師会理事
神戸市立医療センター中央市民病院
薬剤部長代行
室井 延之 Nobuyuki MUROI



平成30年6月より日本病院薬剤師会薬剤業務委員会の委員長を仰せつかっております。どうぞよろしくお願い致します。

団塊の世代（1947～1949年に生まれ、ジーンズを装いビートルズやGSが好きな世代）がすべて後期高齢者となる2025年には、高齢者人口は約3,500万人、認知症高齢者の数は約320万人になると予測されており、医療提供体制の危機といわれています。現在、医療機能の分化および地域包括ケアシステムの推進により、高度急性期病院、急性期病院、回復期病院、慢性期病院や在宅等において、安心して安全な薬物療法を継続的に実施することが求められており、病院間や保険薬局、介護施設との連携や情報提供が極めて重要となります。高齢者の多くは複数疾患を合併しており、これから地域医療を担う総合診療専門医や特定行為のできる訪問看護師の活躍が期待されています。

私たち病院薬剤師の業務も『院内のチーム医療』から『地域における多職種協働マネジメント』に拡大していかなければなりません。特に、在宅医療のマンパワーが十分でない中、病院薬剤師による入退院支援から薬局薬剤師の外来・在宅支援へとオール薬剤師による薬剤師連携が患者の薬物治療の向上に大きな力を発揮すると考えます。

薬剤業務委員会では、入院・外来医療と在宅医療とをつなぐ入退院支援業務の充実を図り、薬物療法の安全性を継続して確保していくための体制構築を推進していきます。昨年の10月より各都道府県病院薬剤師会の協力を仰ぎ、薬剤師の入退院支援業務に関する事例を依頼しましたところ、200を超える施設より先進的な入退院支援業務、薬剤師連携事例をお送りいただきました。心より感謝申し上げます。6月15、16日に開催されました第2回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forumシンポジウムにて各施設の入退院支援業務の取り組みについて紹介させていただきました。また、11月2日より開催されます第29回日本医療薬学会では薬剤業務委員会・地域医療委員会・療養病床委員会合同シンポジウムを企画しております。そして委員会にて事例集を編集し、入退院支援において薬学的なケアを実践するうえでのノウハウを会員間で共有することを進めていきます。さらに、病院機能を視野にいたした薬剤師の入退院支援業務に関するスタンダードを策定することで、全国での薬剤師による入退院支援業務の展開につなげていきたいと考えております。

それぞれの地域における病院機能を再確認し、地域医療を支えるキーパーソンとしての薬剤師の役割について、会員の皆様としっかり議論を深め事業を進めていきたいと思っております。引き続きのご支援ご協力の程よろしくお願い致します。